

スポーツ

スポーツを通して輪を広げては

関係団体と協議

問

東京、北京オリンピックが開催され、国際的にスポーツに対する関心が高まっています。須恵町も昭和40年代中期以降、町民が熱い思いで住みよい町づくりを考え、取り組み、長きに渡り伝統あるスポーツ行事が育ち、多くの町民が喜び楽しむ今日の姿があります。

近年、人々のスポーツに対する意識、運動種目の興味が変化は著しく、既存の行事が始まった時代と今は違います。若者から高齢者まで、適切な運動やスポーツ実践によって健康の維持増進と融和を図り、住んでよかったと実感できる町づくりこそが、スポーツ立町を掲げる須恵町のあるべき姿ではないでしょうか。

答 平松町長

世界のスポーツに対する考え方が大きく変わってきていることに対して、どのように対応し、町民の方々が求めるスポーツ環境をどのように提供していくかが、これからの課題であると思います。eスポーツ、スケートボード、スノーボード等、以前は遊び、レクリエーションの範疇として捉えられていたものが、今では世界が認めるスポーツとしてオリンピック競技種目になるなど、我々の想像以上に世界は柔軟に対応しています。

eスポーツへの取り組みをとのことですが、町内にどれほどの人が興味を示され、大きな流れになっていくかを見極めていきたいと考えています。また、当町のスポーツ行事

の見直しについて、町主催の駅伝大会の開催の是非は、各種関係団体の代表者との協議を設け決定していきたいと思っています。その他は、スポーツ協会主催であり大会の管理運営を各種団体が行っていきますので、町が見直し、廃止、継続の判断をすることはありません。新原区に整備予定のふれあい公園(仮称)にスケートボードの競技場をとのことですが、騒音問題、ルール無視の利用など、近隣住民とのトラブルが頻発している所もあり、慎重に調査を重ねた上で、施設建設の判断をしていきたいと思っています。



答弁中の平松町長

○「問」については、議員が提出した要約文のとおり掲載しており、編集は行っていません。



川口 満浩 議員



施設

公共施設のトイレを洋式へ

今後整備していく

問

小・中学校やアザレアホール須恵のトイレの洋式化が進められています。未だすべての公共施設が洋式トイレとなっていない。和式は、障がい者および一部の高齢者にとっては、使用が困難なケースもあり、これらを洋式化することは、バリアフリーにもつながります。

防災、教育の観点から、または衛生面から便座にふれる洋式を好まない方もおり、一定数和式トイレを残す必要があると思います。生活スタイルの変化とともにトイレの洋式化は急務と考えます。公共施設全般の整備計画を立て、必要な予算の確保に努めていくべきと考えますがいかがですか。

答 平松町長

町内の25の公共施設のトイレは、548基のうち390基、71%が洋式トイレです。衛生状況についても、特段苦情もなく、管理体制に問題はないと思います。

小中学校や文化会館など整備が必要な施設については、年次計画においてトイレの洋式化を行ってきました。庁舎以外のトイレ改修が必要な施設については、整備が完了した状況です。

庁舎内のトイレは、財政状況をしながら、できるだけ交付金や交付税措置がある起債を活用しながら、今後整備していく計画です。また、保健センター側のトイレについては、利用状況を確認させていただき、必要であれば最優先に準備していきたいと思



みすみ えいじろう 議員



今後整備される保健センターのトイレ

○一般質問とは、議員が町長など執行機関に対し、町の行財政全般について疑問点をただし、報告や説明を求めることです。

ここが聞きたい!

一般質問